

まちづくり情報

No.87

＝発行者＝

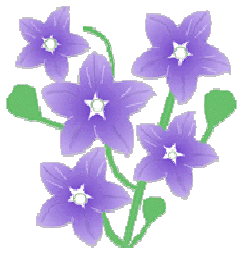
沼田市街なか対策課
TEL 0278-20-1186



◇利根実業高等学校「ミニコミュニティガーデン」◇

平成22年度に造った上之町天狗プラザ交差点の花壇について、今年度から利根実業高校の協力により共同で管理する運びになり、6月17日(月)完成披露式が開催されました。利根実業高校が考える花壇の役割としては①「明るいまちづくり」②「安全なまちづくり」③地域の活性化④子供たちの教育⑤市民の生きがいづくり』であり、花壇づくりの輪が人から人へ、地域のつながりとして本町通りへ、さらには市全体に広がるのが期待されています。今後、花を入れ替えながら年間を通して中心市街地を彩る計画です。また、市の花である「桔梗」をポイントとして使用していますので是非ご覧ください。今回の花壇のデザインについては地域を代表する谷川岳、赤城山、至仏山と幸福への架け橋としての虹をイメージしてあります。

平成26年度には沼田公園と中心市街地をメイン会場として「花と緑のぐんまづくり」が開催される予定となっておりますので、「このミニコミュニティガーデンを契機に中心市街地をより一層の花と緑で彩り地域の活性化につなげていきたいと思います。この活動に対し興味を持った方は、お気軽に街なか対策課又は利根実業高校までお問い合わせください。



◇福幸市◇

中の会商店街が経済産業省の地域商店街活性化事業を活用し、「人にやさしい商店街づくり事業」の一環として「福幸市」を6月16日(日)に開催しました。内容は東北復興のお手伝いとして気仙沼の物産販売、カラオケ教室・発表会、地元野菜販売を行いました。当日は沼田南中や利根実業高校、沼人会、まちづくり応援隊等のご協力により盛況のうち終了しました。

福幸市は9月16日(祝)、12月15日(日)にも開催する予定となっていますので、ぜひお立ち寄りください。



【福幸市の様子】

◇七夕まつり◇

恒例となっている本町通り七夕まつり(主催 本町通商店街連合会)が7月6日(土) 11:00～お馬出し通りを交通規制して開催されます。七夕の飾り付けは7月4日(木)から7月7日(日)まで本町通り・お馬出し通りで行います。また、前夜祭として七夕寄席を6月30日(日)に開催し、たくさんの方で賑わいました。今年度は上之町商店街においても7月7日(日) 18:00～上之町会館で七夕まつりを開催します。皆さんお誘い合わせの上、お出かけください。



◇まち元氣講演会◇

中心市街地商業活性化アドバイザー服部年明氏を講師に迎え、3月17日(日)に開催された「まち元氣講演会」の概要を報告します。

テーマ「これからの中心市街地を考える―」

〇はじめに

中心市街地には、真田の時代から先人たちが築いてきた「まち」を守り、市の顔としての魅力的な「まち」として伝承する責任がある。近年発展してきた郊外にはその責任はない。

〇少子高齢化社会

昭和55年と比べて現在、さらには20年後は税金を納める人がどんどん少なくなり、支えられる人が増えることは確実であり、そのことを前提にまちづくりをしなければならぬ。行政に頼つてもだめな時代になり、古いものを再生して使っていかなければならない。動物・人間・行政・商業等、何でも時代の変化にあわせ対応していかなければならない。

〇これからの中心市街地

中心市街地は市の顔である。郊外ではない。しかし、その中心市街地の地域コミュニティが崩壊しつつある。その部分で現在は商店街に対し商業再生のための補助でなく地域コミュニティ再生のための補助を始めている。これからは中心市街地から郊外への時代でなく、中心市街地や駅前への回帰の時代になり、郊外の空洞化が進むと思われる。若者が戻ってきた「まち」を造っていかねばならない。そのためには「まち」の持っている魅力をさらに磨くことである。「人並み」から「身の丈」「絆」の時代になった。

〇共通認識と合意形成

個人の利害を超え協働・協力しないと「まち」全体の価値の向上にはつながらぬ。アメリカでは現在ショッピングセンターをつぶして商店街を造っている。その中には商業+医療+コミュニティがあり、生活と商業がある。「まち」全体の魅力が低下すると資産価値・業務価値・生活環境価値が低下する。人口・事業所の減は市財政に影響を与え、結果、市民生活に影響を与えるので、行政と地域が力を合わせ中心市街地の活性化を図るべきである。

〇区画整理事業の目的と方向付け

「まち」の再生と地域価値の向上が目的である。今の視点でなく10年後の状況を判断して考える。また、どういった産業を残すのか、農業、観光はどうなるのか、産業はどうなるのか、そこをコントロールするのが商工会議所の役割と考える。



講演会の様子

〇魅力あるまちを目指して

中心市街地の活性化は商業者が考える活性化ではない。住民の視点で商業はどうなるのかである。キーワードは①「住」②「職」③「福」④「学」⑤「商」⑥「憩」⑦「観」その他「文化」「歴史」を重ね合わせる。商業は一番最初ではなく、まずは人口であり、次に働く場所である。再開発をするにしてもその地域全体のランドデザインがなければ着手すべきではない(できないはずである)。まずは、その地域の強みは何かを徹底的に考える。当該地区について、エリア別に顔を分けるべき。下之町はグリーンベル21、中町は高齢者に優しいまち、上之町は歴史的・和の魅力のエリア等。中の会で考えている子育て・コミュニティ施設(地域ぐるみの子育て支援、健康サポート、高齢者社会生活支援)は時代に即していると思う。

〇まとめ

地域で生活している人の意識を変えることしかない。協働・協同してまちづくりを進めてほしい。個人では絶対できないが、個人の利害を超え、協働すればできることはたくさんあると思う。今、東北では「協働なくして「まち」の復興はない」という合い言葉でやっている。

◇国等の情報について(メールマガジン)◇

関東経済産業局ではメールマガジンにより中心市街地活性化、商店街活性化に関する、経済産業省や各機関の支援策やシンポジウム等のお知らせ、地域から寄せられるイベント情報などを配信しています。(株)全国商店街支援センターでも同様のメールマガジンを配信しています。詳しいことはそれぞれのホームページをご覧ください。